Hot ニュース

JR京葉線のダイヤ改正問題

市長へ要望書を提出
（1.22千葉テレビ放映）

◆9月からダイヤ再改正（快速増便）～協議の継続を

JR東日本は5月末、3月のダイヤ改正で快速を大幅に減便するなどしたJR京葉線について、9月から一部の各駅停車を快速に変更する（朝の上下線各2本ずつ）と発表しました。まさに異例とも言えるスピードで、こうした動きを引き出した市の取組みを評価するとともに、JR東日本の対応にも敬意を表します。

一方で再改正の発表後も、朝夕一本ずつの通勤快速の復元など、更なる改善を求める声も頂いており、今後の市の対応について質問をしました。

当局からは**「(9月のダイヤ変更は)一定の評価ができる一方、『夕夜間帯の速達性』などの面では不十分といわざるを得ない」「引き続き定期的・継続的に協議を行っていきたい」との答弁がありました。**千葉市のまちづくりとの関係性も高い問題であり、引き続き取組んでまいります。

地域課題の解決に向けて

■「大網里道踏切」の歩道整備①

（蘇我1丁目、若草1丁目、今井3丁目、南町3丁目の境目）

歩道部分が木製で劣化が激しく、多方面から改善要望を頂いております。当局から「JR東日本及びJR貨物に対して路面改良を申し入れており、両者が改良の検討を行っている」との答弁を頂きました。

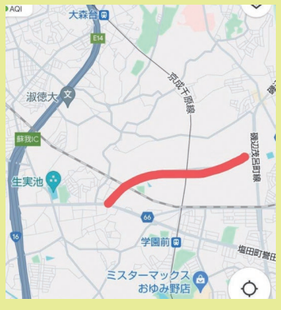
■大網街道における歩行者の安全対策②

（赤井交差点～商業施設マミーマート前など）

大網街道の多くの箇所で歩道と車道に段差があり、車道が狭いため、自転車も歩道部分を走ることとなり（近隣の高校もご協力頂いておりますが）歩行者の安全対策が急務です。当局から「歩行者や自転車が通行しやすくなるよう、側溝の段差解消や、蓋（ふた）を隙間が少ないスリットタイプに改良する対策を検討する」との答弁を頂きました。

■生実本納線への街路灯の設置③

生実町から赤井町に至る生実本納線は完全開通していないこともあり、街路灯が設置されておらず、約1kmの間、夜間は完全な暗闇となります。2年前の質問に続き改善を求めたところ、「安全性を確保するため、今年度、屈曲部など必要箇所に道路照明灯を設置する」との答弁を頂きました。



市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員 **酒井 伸二**
〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14
Tel.090-2910-3925
ホームページは「酒井伸二」で検索ください！ http://www.facebook.com/sakai.cc e-mail:sakai_chiba@outlook.jp

公明党千葉市議会議員団 議会報告 No.63 発行日 / 令和6年7月5日

さかい通信

2024 夏号

充実の子育て環境へ

～社会全体で育ち支える～

●改正子ども・子育て支援法が成立

一昨年に公明党がまとめた「子育て応援トータルプラン」を反映した、政府の「こども未来戦略・加速化プラン」が具体化され、6月5日、改正子ども・子育て支援法が成立しました。児童手当の拡充や、育児休業取得時の手取り収入の実質10割への引き上げ、親の就労要件を問わずに保育施設を利用できる「こども誰でも通園制度」の創設などが盛り込まれております。（左図参照）

先の議会（令和6年 第2回定例会）では、こうした国の動きを踏まえ、本市ならではの子育て環境の一層の充実を求め、一般質問を行いました。

改正子ども・子育て支援法などの主な内容と施行日

施行日	内容
2024年 10月1日	●児童手当を拡充（①所得制限を撤廃 ②支給対象を高校生年代に延長 ③第3子以降は月3万円に増額）
11月1日	●児童扶養手当の多子加算を増額
25年 4月1日	●育児休業給付を拡充（両親が14日以上取得で最大28日間、実質10割に引き上げ） ●2歳未満の子どもがいる時短勤務者に対し、賃金の10%を上乗せして支給
26年 4月1日	●公的医療保険料に上乗せして徴収する「子ども・子育て支援金」制度を創設 ●「こども誰でも通園制度」を全国で開始
10月1日	●自営業者らが入る国民年金の保険料を子どもが1歳まで免除

（共同、公明新聞）

●市民の皆さまからの声をもとに

「(仮称)こども基本条例」「こども誰でも通園制度(試行)」「学童保育の昼食提供」の進捗確認とともに、以下を提案、主張しました。

❶**第三子の定義の見直し**：子ども医療費助成や学校給食費における第三子の優遇措置は、第一子が扶養から外れると第三子は第二子となり対象外に。扶養の変化に関わらず、第三子は第三子のままに!

❷**多胎妊産婦の外出支援**：障害者等用駐車区画利用証制度（パーキングパーミット：右写真参照）における多胎妊産婦の利用期間延長を!

❸**イクメン（男性の育児者）視点のトイレ整備**：公共施設や商業施設への、子ども用トイレの整備や男性トイレの個室にベビーチェア、子ども用オマルの設置促進を!

声をカタチに

千葉市の学童保育「夏休みの昼食提供サービス」開始へ

●一年前の議会質問での要望が実る

千葉市内全ての学童保育（子どもルーム、アフタースクール）において、この夏休みからお弁当を注文できる仕組みが始まります。

昨年の統一選の折に「毎日朝の弁当作りが大変」との声を頂き、（ちょうど一年前）当選後初の議会で取り上げました。

今回、改めてその後の進捗を問うたところ、昨年の質問以降「ニーズ調査や春休みの試行実施がなされ、一定のニーズが確認できたことから実施に向けて協議をしている」との答弁がありました。

※本誌編集段階（7月1日現在）では協議中ですが、7月初旬にも正式決定の見込みです。

令和6年
第2回定例会
一般質問より

【通告項目】
1. 防災施策の充実について
2. 脳脊髄液減少症について
3. 充実した子育て環境づくりについて
4. 市内の公共交通課題について
5. 地域の諸問題について

※項目3.5.関連は1,4面に掲載。

■録画放映は右記のサイトにてご覧になれます。 www.chiba-city.stream.jfit.co.jp

■防災施策の充実について

●分散避難のマニュアル作成を

千葉市では東日本大震災以降、避難所運営委員会の設立とその運営強化に力を注いできました。当時、その立ち上げを訴えた一人として評価しております。一方で、コロナ禍以降は「避難所避難」のみならず、「在宅避難」や「車中泊避難」など、分散避難の考え方が広がってきました。そこで、避難所運営のマニュアルの整備が各地で進む中、「在宅避難」や「車中泊避難」についてもマニュアルの作成を進めるよう提案しました。

当局からは**「在宅避難や車中泊避難では、正しい知識に基づくマニュアルなどにより周知・啓発を行うことは重要」「国が自治体向けの指針作成に取り組んでおり、その動向を踏まえ検討していく」**との答弁がありました。実現に向け、取り組んでまいります。

●マンホールトイレの整備拡充を

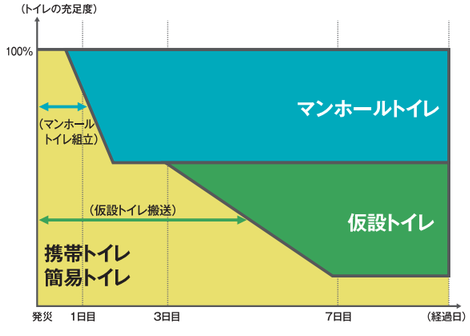
千葉市における（マンホールの上に簡易な便座を設け、災害時に迅速にトイレ機能を確保する）マンホールトイレは、昨年度末までに全市立小中学校（166校）への整備が完了し、今年度からは県立高校（22校）への整備を予定。指定避難所の総数が272ヵ所であることから、その先の計画を問いました。

当局からは**「公民館（47館）への整備を検討するとともに、コミュニティセンターやスポーツセンター、私立学校など84ヵ所についても整備方法の検討を行っていく」**との答弁がありました。

なお、「私立学校」は「明徳学園」1校のため、「県立高校」と合わせて整備するよう求めました。

●災害時のトイレ確保・管理計画の策定を

国交省が示す「災害時のトイレの充足度のイメージ」（下図）のとおり、発災から時間の経過とともにマンホールトイレ等が整備されていきますが、その準備が整うまでは携帯トイレ等でしのぐことになります。また、マンホールトイレは下水道施設の安全確保が稼働の条件であり、破損があればそもそも利用できません。携帯トイレの備蓄も、一人あたり一日5回分、かける日数分の備蓄が推奨されておりますが、市内避難所の備蓄は一人あたり1～2回分程度です。そこで、災害時のトイレ確保・管理計画の策定を求めました。



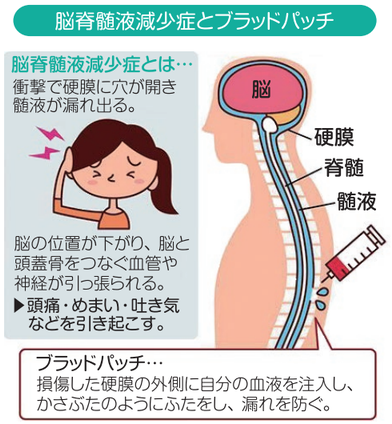
当局からは**「災害用トイレは、総合的・計画的に検討していく必要があることから、関係部局と連携して対策を進めるための体制づくりを検討していく」**との答弁がありました。

NPO法人日本トイレ研究所は、能登半島地震を教訓に、「命と尊厳を守る環境整備」として各自治体にトイレ確保・管理計画の作成を訴えております。継続的にしっかりと取り組んでまいります。

■脳脊髄液減少症について

今般、治療法・ブラッドパッチの診療報酬点数が上がったことを機に、2年ぶり2度目の質問をしました。

さて近年、その患者層において小中高年代の増加が顕著とのこと。これは、国際的な診断基準で（中高生にも多いとされる）起立性調節障害との症状の類似性が背景にあるものと予想されます。ちなみに、この起立性調節障害は、全国の中高生約70万人がり患し、重症者7万人の不登校生がいるとされております。（2021年度ベースで千葉市内の小中学校で154件の報告。高校生も含めると更に多いと推察されます。）ブラッドパッチ療法の著名な医療機関は西日本方面に多く関東にはないとも言われるなか、適切な診断、治療の環境が広がるとともに、そもそもこうした疾病が存在することを広く知って頂くことが重要であり、啓発強化を求めました。



当局からは**「診療報酬改定により、同療法が行いやすくなり導入が進むと考えられることから、効果的な情報発信に努める」「同疾病の適切な対応と疾病に対する認識について、より多くのスポーツ関係者に周知を図る」**等の答弁がありました。今後も、継続的に取り組みを進めてまいります。

※偶然にも質問日の3日前、NHKの番組「あさイチ」に俳優の米倉涼子さんが出演され、自らが脳脊髄液減少症を罹患し闘病してきた経験を語っておられました。「なかなか人にわかってもらえない」「怠慢と見られがち」「本当にこういう病気があることを知って欲しい」からとのコメントが印象的でした。

■市内の公共交通課題について

●鉄道駅へのホームドアの設置促進を

JR千葉駅及び稲毛駅へのホームドアの設置は来年度完成予定となっておりますが、JR海浜幕張駅や蘇我駅など、駅周辺で開催される大型イベント時を中心に利用者の安全確保の視点から早期の整備に期待がかかります。そこで、その見通しを問いました。

当局からは**「JR東日本の発表した資料によると、2031年度末頃までに海浜幕張駅や蘇我駅等の市内11駅を含む330駅の整備を目指すとしている」「引き続き、要望等働きかけを行っていく」**との答弁がありました。早期の実現を目指していきます。

●路線バスの減便対策を

各地より4月以降の路線バスの減便について多数の声を頂いており、その状況と今後の見込みを問うたところ、**「本年2月と4月時点との比較で減便数は約550便、全体の約6%、また運転手数は令和3年度約2,500人に対し、今年度は約2,400人に減少している」「今後も減便等の実施の可能性もある」「今年度予算化した支援事業を進めるとともに、運転手確保や運行経費への支援拡充など国へ要望していく」**との答弁。また、声が顕著な大巌寺エリアは**「平日上下30便が16便」**に、南生実町エリアは**「54便が4便」**に減少したことから**「利用状況などについて事業者への聞き取りを行っている」**との答弁。

事態は極めて深刻であり、バス事業の生産性向上策への支援強化とともに、ライドシェアを含め、社会福祉法人や教育機関、商業施設など、市内の車両保有事業者への協力呼びかけを求めたところ、**「地域の輸送資源の総動員は重要であり、協力・連携しあう体制づくりに努める」**との答弁がありました。

早期に具体の枠組みを出現させるよう求めるとともに、引き続き課題解決に向け取り組んでまいります。